



第6章 地域福祉活動計画

1 地域福祉活動計画の基本的な考え

(1) 地域福祉活動計画の趣旨

地域福祉活動計画（以下「活動計画」という。）は、地域福祉の推進役である社協を中心に、住民主体の理念の下に関係機関・団体などが協働し、地域が抱える生活課題や福祉課題の解決を目指すとともに、福祉のまちづくり実現のための民間の行動計画として位置付けられます。

活動計画は、これからの本市全体の「地域の福祉力」を高めていくものであり、社協の今後の事業展開に重要な位置を占めるものとなります。

活動計画策定は、社協を中心に、本計画の基本理念である「お互いを認め 共に生きる わがまち八千代市 ～一人ひとりを大切に～」の実現に向けて、地域を支え、地域力を発揮している各種機関・団体などと協働し、果たすべき役割を明確にし、各自がそれぞれの立場で地域福祉活動を実践していくための指針となるものです。

(2) 地域福祉の主体

市民一人ひとりの尊厳を守り、それぞれの個性を認め合いながら、多様化、複雑化した、生活課題、福祉課題を解決していくことは、行政だけでは困難な状況であり、市民一人ひとりや福祉活動団体等による地域力が必要です。

地域福祉を推進する主体については、市民、地域自主組織、ボランティア組織、民生委員・児童委員、社会福祉法人・社会福祉事業者、NPO 法人、社会福祉協議会、行政等が挙げられ、これらの推進主体が担う役割について認識を共有し、相互に連携・協力し合っていくことが重要です。

活動計画では、第4章に記載した施策の方向性の推進主体として「市民」「地域」「社協」を3つの主体として捉えました。懇談会等による市民からの意見を踏まえ、3つの主体がともに福祉のまちづくり実現に向けて取り組んでいきたいと考えております。以降3つの主体を次のように記載いたします。

- 市民・・・市民一人ひとり（個人として取り組めること）
- 地域・・・地域みんな（団体や組織、企業として取り組めること）
- 社協・・・社会福祉協議会（社協が取り組めること）

2 施策の方向性と取組

(1) 福祉教育・ボランティア学習への参加機会の増進

☞ P. 62 参照

■ 主な意見（懇談会等より） ■

- ・ 障害者，子ども，子育てへの関心や理解が不足している。
- ・ 高齢者と小・中学校の生徒との交流を通じた福祉教育を積極的に行うべき。
- ・ ボランティアに関心がある若い人が少ない。
- ・ 周りの人に関心を持つ人が少ない。

■ 具体的な取組 ■

主な担い手	取組内容
市民一人ひとり	<ul style="list-style-type: none">○フォーラムや講座に参加し，他者への理解を深めるように努めます。○大人も子どもも，学ぶ姿勢を持ちます。○小・中学校での防災教育，福祉教育のボランティア等に参加します。
地域みんな	<ul style="list-style-type: none">○地域の良さを次世代に伝え，市民活動に参加する機会を提供します。○学校と地域が連携して取り組む事業を積極的に実施し，周知します。○福祉に関する理解を深める講座等を開催する場所を提供します。
社会福祉協議会	<ul style="list-style-type: none">○福祉教育及びボランティア学習を開催するにあたり，市民が参加しやすいように配慮します。○学校において心のバリアフリー教室を実施する等，福祉教育をあらゆる世代に対して実施します。○企業や団体と協働し，新たな福祉教育プログラムを作成します。○ホームページや SNS を積極的に活用し，講座等の案内を行います。

(2) 地域における居場所づくりの増進

☞ P. 62 参照

■ 主な意見（懇談会等より） ■

- ・ 地域の中で子どもも大人も気軽に集まれる場所や地域のつながりをつくれる場所が少ない。
- ・ 隣近所の人と知り合う機会がなく、交流も少ない。
- ・ 高齢者、子どもの遊べる場所が少ない。

■ 具体的な取組 ■

主な担い手	取組内容
市民 一人ひとり	<ul style="list-style-type: none">○地域の活動や交流の場に参加したときは、SNS 等で情報を発信します。○高齢者や障害者を誘って、市民活動に参加します。
地域みんな	<ul style="list-style-type: none">○障害者、高齢者、子ども、外国人等、幅広い層の交流や情報交換の機会を設けます。○誰もが参加したいと思える魅力ある活動を展開します。○公園や公民館、郷土博物館等身近な施設を交流の場として活用します。○高齢者の特技や経験を、若い人や子どもたちへ伝える場をつくります。○サロン、やちよ元気体操など、各種の集いの場を提供します。○有効活用できる拠点について地域と話し合います。
社会福祉 協議会	<ul style="list-style-type: none">○支会が運営、開催するふれあいサロン、子育てサロン、世代間交流事業等を支援します。○子どもの居場所事業ふらっとホームの運営を支援します。○米本コミュニティスペース「ほっこり」をモデルとして、地域課題を解決する場を各地域に拡充するよう努めます。○ひきこもり支援を通じ、相談者の居場所づくりを拡充します。○感染症予防に関するガイドライン等を策定し、住民主体の居場所づくりを支援します。

(3) ボランティア・市民活動の推進支援体制の整備

☞ P. 63 参照

■ 主な意見（懇談会等より） ■

- ・ ボランティア団体のメンバーが高齢化しており，後継者もない。
- ・ ボランティアへの参加方法やどんな活動があるのかわからない。
- ・ 若者の地域活動への参加が少ない。

■ 具体的な取組 ■

主な担い手	取組内容
市民一人ひとり	<ul style="list-style-type: none">○地域のボランティア団体や社協の活動を知り，理解を深めます。○市や社協の実施するサポーター養成講座などに積極的に参加します。○特技や経験を活かし，ボランティア活動に取り組みます。
地域みんな	<ul style="list-style-type: none">○子どもがボランティア活動に積極的に参加できるよう支援します。○住民の地域への関心を高め，市民活動やボランティア講座への参加機会を提供します。○ボランティア情報の提供や活動について，相談ができる地域のアドバイス役の育成に努めます。○ボランティアや市民活動などの各種団体同士の情報交換・意見交換の場を設けます。○ポスター，チラシ等設置し，広報活動に協力します。
社会福祉協議会	<ul style="list-style-type: none">○ボランティア活動（個人・団体）を支援します。○ボランティア養成講座を開催します。○地域が主催する担い手養成講座を支援します。○市との共催事業「ボランティアカフェ」を開催し，ボランティア団体と市民活動団体のネットワークづくりを支援します。

(4) 地域の助け合い活動に関する担い手の養成

☞ P. 63 参照

■ 主な意見（懇談会等より） ■

- ・ 近隣住民の手助けなど、地域の支え合い活動が活発ではない。
- ・ 地域活動を担う人が集まって学ぶ機会をつくってほしい。
- ・ 特定の人しか地域活動をしていない。
- ・ 一人暮らしの人が増えている。
- ・ 高齢などにより日常生活の中で、地域の助けが必要な人が増えている。
- ・ 介護前の家庭に援助の手が必要（庭木の剪定、電球の交換、ごみ捨て等）。
- ・ 地域の他の世代の人達とどう助けあい活動ができるのかわからない。

■ 具体的な取組 ■

主な担い手	取組内容
市民 一人ひとり	○地域の中で、自分ができようことを考え、行動するよう心掛けます。 ○地域の活動に積極的に参加します。
地域みんな	○地域における助け合い・支え合いなどの仕組みを、多くの住民に知ってもらえるよう周知に努めます。 ○市民活動を継続するため、担い手の育成に努めます。 ○地域包括支援センター等に「担い手養成講座」や「認知症サポーター養成講座」等の開催を依頼し、地域の活動の担い手の養成に努めます。 ○ボランティアやNPO団体等の各種団体同士の情報交換・意見交換の場を設けます。
社会福祉 協議会	○地域で主催するボランティア養成講座を支援します。 ○ゆいのわ八千代のサポーター及び協力店舗を増やします。 ○福祉教育サポーターを養成します。

(5) 身近な地域で住民同士が見守り・相談できる体制づくりの推進

☞ P. 64 参照

■ 主な意見（懇談会等より） ■

- ・見守り活動を行う際に、見守りの必要な人がどこにいるのかわからない。
- ・一人暮らしの高齢者等地域で孤立しがちな人の見守りが十分でなく、身近に相談できるような場所がない。
- ・親族がいても親身に対応してもらえない人がいる。

■ 具体的な取組 ■

主な担い手	取組内容
市民 一人ひとり	<ul style="list-style-type: none"> ○隣近所であいさつや声かけをし、地域の関わりを増やします。 ○隣近所の人で郵便物がたまっている、いつも電気がついている等、いつもと様子が違うことに気づいたときは、一歩進んで声かけや適切な機関に連絡をします。 ○自分の住んでいる地域の民生委員・児童委員や自治会の人が誰かを把握します。
地域みんな	<ul style="list-style-type: none"> ○地域での活動を通じて、支援が必要と感じた人を発見した場合は、民生委員・児童委員や専門の相談窓口につなぎます。 ○徘徊の高齢者や一人暮らしの気になる人を隣近所の人たちで見守ります。 ○困っている人が相談しやすい地域の関係づくりを行います。 ○スクールガード等、身近でできる活動に参加し、子どもたちを見守ります。
社会福祉 協議会	<ul style="list-style-type: none"> ○各支会が実施している、わがまち元気プロジェクト（ワークショップ）を通じ、声掛けや見守りの必要性を共有するとともに、各種専門機関にもワークショップに参加してもらい、連携・協働する仕組みを構築します。 ○支会が実施している声掛け・見守り活動を支援します。

(6) 防災を通じた福祉のまちづくりの増進

☞ P. 65 参照

■ 主な意見（懇談会等より） ■

- ・ 災害時の助け合い活動が必要であると感じる。
- ・ 地域の防災活動への参加率が低い。
- ・ 災害時に障害者や高齢者など支援が必要な人への配慮は十分か。
- ・ 防災時、耳が聞こえない人や聞こえにくい人への工夫が難しい。
- ・ 住民の防災意識が低い。
- ・ 一人暮らしの高齢者が多い地域での防災訓練が大変。

■ 具体的な取組 ■

主な担い手	取組内容
市民 一人ひとり	<ul style="list-style-type: none"> ○災害に備え、防災用品や食料品等を備蓄します。 ○災害時の緊急連絡先や連絡方法、避難場所等を普段から家族と話し合い、情報を把握します。 ○日頃から地域でのつながりを深め、災害時に役立つ情報の収集に努めます。 ○避難行動要支援者名簿に要支援者、支援者として積極的に登録します。
地域みんな	<ul style="list-style-type: none"> ○あらかじめ地域の中で災害時の安否確認方法や支援者を決める等、協力体制を整備します。 ○災害時に備え、地域で非常持ち出し品や避難場所を確認します。 ○地域で災害時に安否確認や安全な場所への避難の手助けを行います。 ○避難行動要支援者の個別計画の作成を、市と連携して主体的に進めます。 ○防災協定の締結をします。 ○各種団体は、自治会の防災訓練や市の防災訓練に参加します。
社会福祉 協議会	<ul style="list-style-type: none"> ○有事の際に備え、平時から顔の見える関係づくりを目的とした取組（防災寺子屋等）を実施します。 ○有事の際、各種団体と連携・協働し「災害ボランティア・被災者支援センター」を運営し、被災者支援に努めます。 ○避難行動要支援者に対する地域住民の取組を支援します。 ○災害時パートナーシップ協定を推進していきます。

(7) 日常生活における行動手段の工夫と体制の整備

☞ P. 65 参照

■ 主な意見（懇談会等より）■

- ・ 地域によっては病院等の施設が遠く、移動手段を考えなければいけない。
- ・ 高齢者等、移動手段がないことでイベント等に参加することが難しい人がある。
- ・ 車や公共交通機関等の手段がなく、買い物や通院に困っている。

■ 具体的な取組 ■

主な担い手	取組内容
市民 一人ひとり	○高齢者等は、移動支援サービスやタクシー利用券助成事業等を利用します。 ○ご近所同士、助け合い精神でサポートしあえる関係づくりに努めます。
地域みんな	○通院の送迎や買い物の支援、移動販売の誘致等、地域でできることを話し合います。 ○移動支援サービス等の情報提供等を行います。
社会福祉 協議会	○ボランティア及び支会による外出支援活動を支援します。 ○移送サービスの充実・強化を図ります。 ○企業や大学が開発する新たな移動支援サービスを地域住民とともに支援します。

(8) 権利擁護をすすめるための支援体制の充実

☞ P. 66 参照

■ 主な意見（懇談会等より） ■

- ・ 高齢者虐待，障害者虐待，児童虐待を見聞きした際に，どのように対応すればいいかわからない。
- ・ 地域に認知症の高齢者が増えている。
- ・ 成年後見制度について知らない人が多い。
- ・ 一緒に病院に行ってくれる人がいないために，先生の言うことがわからない人がいる。

■ 具体的な取組 ■

主な担い手	取組内容
市民 一人ひとり	<ul style="list-style-type: none">○困ったときに相談できる機関などを知るようにします。○日常生活を送るのが困難な人がいたら，話を聞き，専門機関等につなぎます。○虐待を受けている，または受けていると思われる人を発見した時は，市等に通報や相談をします。○虐待防止に向けた取組への関心を高めます。○成年後見制度の内容について理解を深めます。
地域みんな	<ul style="list-style-type: none">○地域全体で支援を必要とする人を支える体制づくりに取り組みます。○地域でどんな人が困っているか，助けが必要か，地域で集まり話し合います。○虐待やDVの早期発見に努め，関係機関につなげます。○地域で研修会を開催する等人権に対する理解を深めます。○認知症高齢者など，判断能力の低下に伴い支援が必要な人を早期に発見し，支援につなげていくよう努めます。○認知症サポーターや成年後見制度についての支援活動を行います。
社会福祉 協議会	<ul style="list-style-type: none">○日常生活自立支援事業や成年後見制度について啓発を行い，支援の充実・強化を図ります。○虐待発見の際の連絡先・方法等の啓発に努めます。

(9) 住民組織・住民活動の活性化の支援

☞ P. 66 参照

■ 主な意見（懇談会等より） ■

- ・自治会の未加入者が多くなってきており，世代間の交流が難しい。
- ・地域団体同士の連携がうまく取れない。
- ・高齢化が進んでいて，自治会活動を担当できない人が出始めている。

■ 具体的な取組 ■

主な担い手	取組内容
市民 一人ひとり	○地域の各種団体の活動に積極的に参加します。 ○身近な地域から住民活動の情報を集めます。
地域みんな	○老人クラブなど既存の組織を活性化します。 ○組織の中での人材発掘・育成を進め地域福祉に貢献します。 ○地域のイベント，お祭り等の行事を支援します。
社会福祉 協議会	○自治会をはじめ，長寿会，当事者団体，子育て支援団体等，住民組織による活動やボランティア活動を支援します。 ○広報誌，ホームページ，SNS等を活用し，広く住民活動を啓発していきます。

(10) 多様な生き方や多文化を認めあえる環境づくりの推進

☞ P. 67 参照

■ 主な意見（懇談会等より） ■

- ・ 地域で孤立している外国人住民に対応できる関係団体が少ない。
- ・ 外国人住民と交流できる場が少ない。
- ・ 不登校の子どもの居場所がない。
- ・ 外国人住民との生活のルール感覚の違いがある。

■ 具体的な取組 ■

主な担い手	取組内容
市民 一人ひとり	<ul style="list-style-type: none">○日頃から地域にどんな課題があり、身近でどんな人が困っているのか等関心を持ちます。○地域の問題に目を向け、住み良い地域づくりに心掛けます。○地域に住む外国人と交流を図り、理解を深めます。○性的少数者への理解を深めます。
地域みんな	<ul style="list-style-type: none">○外国人住民が相談しやすい環境を整えます。○外国人住民の文化や性的少数者への理解を深め、地域での関係づくりをします。○ひきこもりや性的少数者をテーマにした研修会へ参加します。
社会福祉 協議会	<ul style="list-style-type: none">○住民主体による多文化交流活動を支援します。○多様性を認め合えるよう福祉教育を実践します。○生活福祉資金貸付事業を通じ、経済的な相談を含め、外国人への相談体制を充実・強化します。○ひきこもり支援を通じ、住民への理解を深めます。

(11) 地域共生社会の理解促進

☞ P. 68 参照

■ 主な意見（懇談会等より） ■

- ・外国人や障害者，子育て世代，不登校の子ども等とのつながりが少ない。
- ・地域福祉を知らない，関心がない方が多い。
- ・地域での支え合いや助け合いについての住民の理解や関心が十分でない。
- ・子どもと大人，高齢者の交流の機会が少ない。

■ 具体的な取組 ■

主な担い手	取組内容
市民 一人ひとり	<ul style="list-style-type: none">○困りごとを抱えている住民の課題を我が事としてとらえ，支え合いや助け合いの活動に参加します。○色々な人とのつながりを通し，地域で共に支え合いながら生きていく事を意識します。
地域みんな	<ul style="list-style-type: none">○地域の高齢者や障害者等が快適に暮らせるよう配慮します。○地域のことがわかる広報や回覧，チラシを作成します。○ごみ出し，ペットの飼い方，公共施設の利用等地域のルール共有化を図ります。○地域の支え合いの必要性を住民に伝えます。
社会福祉 協議会	<ul style="list-style-type: none">○地域共生社会実現に向けた広報啓発活動を推進します。○個別の支援を通じて，支え手・受け手という関係を越えたつながりを充実させます。○地域共生社会の実現に向けた福祉教育プログラムを実践します。

(12) 全世代，全対象型の福祉総合相談の支援体制の整備

☞ P. 68 参照

■ 主な意見（懇談会等より）■

- ・悩みごとや困りごとを気軽に相談できる場所が必要。
- ・地域の困りごとの把握や困っている人とのつながりづくりができていない。
- ・地域から孤立している人の情報が得られない。

■ 具体的な取組 ■

主な担い手	取組内容
市民 一人ひとり	○各種相談窓口や制度について情報を集め，困ったことがあった際は有効に活用します。
地域みんな	○複合化や制度の狭間にある問題などに目を向け，各種相談窓口につなげます。 ○住民に様々な福祉情報を提供し，各種相談窓口の周知と利用を呼びかけます。 ○地域住民が気軽に立ち寄り相談できる体制を整備します。
社会福祉 協議会	○断らない相談支援体制を構築します。 ○顔の見える関係づくりを促進します。 ○米本コミュニティスペース「ほっこり」をモデルとして，住民主体による相談窓口が各地域に設置できるよう努めます。

(13) 地域福祉活動のネットワーク形成

☞ P. 69 参照

■ 主な意見（懇談会等より）■

- ・ 他団体との連携や交流を行いたい。
- ・ 地域福祉活動団体のつながりが弱い。

■ 具体的な取組 ■

主な担い手	取組内容
市民 一人ひとり	○地域でのイベント（行事）や地域福祉活動に参加し，地域の人や団体等とのつながりを深めます。
地域みんな	○講座や福祉に関する学習等の参加を通じて，市民活動団体同士の理解を深めるように努めます。 ○回覧板等地域に密着した情報伝達手段を活用し，地域福祉活動の情報を提供します。 ○地域福祉活動団体同士による交流を行い，情報を共有します。
社会福祉 協議会	○福祉関係者の交流会を充実させます。 ○ボランティアセンター運営委員会を充実させ，ボランティア同士のネットワーク強化を図ります。 ○支会が実施する世代間交流事業やわがまち元気プロジェクトのワークショップを通して，ネットワークの拡充・充実を図ります。 ○地域のプラットフォームとして，自治会をはじめ，ボランティア，民生委員，市民活動団体等，様々な団体・機関をつなぎ，ネットワークの拡充に努めます。

(14) 情報のバリアフリーの推進

☞ P. 69 参照

■ 主な意見（懇談会等より）■

- ・ 知りたい情報が届かない。
- ・ 外国語版の情報を増やす必要がある。
- ・ 誰でも利用できる情報の発信方法が必要。

■ 具体的な取組 ■

主な担い手	取組内容
市民 一人ひとり	○福祉に関する情報について関心をもち、自ら進んで情報収集します。 ○情報入手が困難な人に対して、入手できるように手助けします。
地域みんな	○地域住民の間で、福祉制度やサービスに関する情報を共有します。 ○情報入手が困難な人を把握し、必要な情報が届けられるような仕組みをつくります。
社会福祉 協議会	○情報入手が困難な人に適切な情報が届くよう、地域の方々と連携し、 様々な媒体を活用することで広報活動を充実させます。

(15) 地域福祉をすすめる人材の育成・確保の体制づくりの推進

☞ P. 70 参照

■ 主な意見（懇談会等より）■

- ・ 自分の困りごとに当てはまる福祉サービスがない。
- ・ 人材が高齢化しており、後継者が育っていない。
- ・ 地域のリーダーが不足している。

■ 具体的な取組 ■

主な担い手	取組内容
市民 一人ひとり	○興味を持ったボランティア活動に積極的に参加します。 ○ボランティアに必要な知識を身につけるため、研修等に参加します。
地域みんな	○地域活動団体等はボランティア活動希望者を積極的に受け入れます。 ○全世代が興味を持てるように、ボランティア活動の啓発を企画します。 ○ボランティア講座やリーダーを養成する研修等への参加を呼びかけます。 ○研修会や講演会等を実施します。
社会福祉 協議会	○生活支援員の育成及び、スキルアップに努めます。 ○福祉・医療従事者との連携を拡充します。 ○ボランティアリーダーを養成します。

(16) 企業，社会福祉法人，NPO法人等による社会貢献活動・ 地域福祉活動の推進

☞ P. 70 参照

■ 主な意見（懇談会等より） ■

- ・ ボランティア活動に参加する方法がわからない。
- ・ 一緒に活動に参加する仲間がいない。
- ・ 企業などによる買い物支援や移動支援ができるとよい
- ・ 法人等に場所の提供をしてほしい。
- ・ 福祉施設と地域住民の関わりが少ない。

■ 具体的な取組 ■

主な担い手	取組内容
市民 一人ひとり	○企業や社会福祉法人等が取り組む社会貢献活動に関心を寄せ，イベント等に参加します。
地域みんな	○各種団体がメリットを活かし，連携・協力による事業展開について検討協議します。 ○地域課題を解決していくために，社会福祉法人・NPO法人等と連携し福祉ネットワーク会議を開催します。 ○社会貢献活動を地域の組織・団体の定期的な交流の場とします。
社会福祉 協議会	○企業のCSR（企業の社会的責任）活動を支援します。 ○社会奉仕団体等の会合に出向き，地域課題の共有及び地域貢献活動・地域福祉活動の啓発を実施します。 ○社会福祉法人による公益的な取組を支援します。 ○ゆいのわ八千代を通じ，就労継続支援事業所の地域で行う活動を支援します。

(17) 地域福祉における医療・教育・福祉サービスの充実

☞ P. 71 参照

■ 主な意見（懇談会等より）■

- ・子育て支援が不足している。
- ・身近に通える病院がない。
- ・健康問題。高齢者が多いので不安がある。
- ・若い人の心の病が増えている。

■ 具体的な取組 ■

主な担い手	取組内容
市民 一人ひとり	○日頃から必要な福祉サービスに関する情報の入手に努めます。 ○福祉サービスについて意見や要望があれば、市や社協などに相談します。
地域みんな	○地域住民が適切なサービスを受けられるように、地域の中で周知を図ります。
社会福祉 協議会	○地域診断を実施し社会資源の把握と創出に努めます。 ○支会で実施している元気体操、健康サロン等を広報し、健康づくりに努めます。 ○ゆいのわ八千代を充実させ、様々なニーズに対応していきます。

(18) 経済的困窮、社会的孤立の解消のための自立支援体制整備

☞ P. 71 参照

■ 主な意見（懇談会等より）■

- ・不登校の子どもや生活困窮世帯、ひきこもりに対する支援が十分でない。

■ 具体的な取組 ■

主な担い手	取組内容
市民 一人ひとり	○支援制度に興味を持ち、情報収集に努めます。 ○支援が必要な人がいた場合は、市役所や民生委員・児童委員、福祉推進員、自治会役員に知らせるなど、必要な支援へつなぎます。
地域みんな	○支援制度の情報が必要とする人に届いていないことに気づいたら知らせます。 ○身近に困っている人や生活に困窮している人を見つけたら、関係機関につなげます。
社会福祉 協議会	○ひきこもり支援を強化し、ボランティアや住民の協力を得ながら社会とのつながりを深められるよう支援します。 ○生活福祉資金貸付事業を通じ経済的な支援を行います。

(19) 多機関協働による包括的支援のネットワークづくりの増進

☞ P. 72 参照

■ 主な意見（懇談会等より）■

- ・ 事業者等の様々な支援者をどのように結びつけるかが課題である。
- ・ 地域活動の中心的な役割を担う人のサポートをする仕組みづくりが必要。

■ 具体的な取組 ■

主な担い手	取組内容
市民 一人ひとり	○困りごとがあったときに相談できる場所を把握します。 ○隣近所の人の変異に気づいた時には、関係機関に連絡します。
地域みんな	○福祉ネットワーク会議を開催し、情報交換、地域課題の発掘等に努めます。
社会福祉 協議会	○社協発展・強化計画を策定し、理事会・評議員会を充実・強化するとともに、ネットワークの強化に努めます。 ○福祉分野以外の団体による支え合い活動を支援していきます。



3 地区別計画

阿蘇地域

地域データ

地域の範囲	下高野・米本・米本団地・ 神野・保品・堀の内・上高野 (阿蘇中学区内)
面積	11.2 km ²
人口 (令和2年3月末)	9,755 人
世帯数 (令和2年3月末)	5,133 世帯



地域懇談会などで集まった住民の声

○ 地域のよいところ

- ・自然に恵まれている
- ・高齢者が農業で頑張っている
- ・自治会がしっかり活動している
- ・学校が一緒なので、すぐに声掛けできる
- ・地域のコミュニケーションが良い
- ・病院や施設が多い

○ 地域の課題

- ・買い物が不便
- ・子どもが少ない
- ・自治会を抜ける人や入っていない人が多い
- ・交通の便が悪い
- ・誰もが集える場所がない
- ・空き家が目立つ

○ 地域課題の解決アイデア

- ・交流の場を設ける
- ・隣近所に関心を持ち声掛けを行う、ごみ出しや買い物等の日常生活のお手伝いをする
- ・民間の業者等に依頼をして、移動販売に来てもらう
- ・自治会を加入するメリットを広くPRする
- ・空き家を活用し居場所をつくる
- ・圏域内を巡るバスがあるとよい
- ・農業体験を開催し、親子を招待する
- ・高齢者と子どもたちが学校給食と一緒に食べる機会を設ける
- ・サークル等を増やし、子育てしやすい環境をつくる
- ・子ども向けのカレーの会や子ども食堂等を開催する
- ・米本神社での行事を増やす

米本地区（米本支会）

将来どんな“まち”でありたい

- 幅広い世代が、ボランティア活動に積極的になれるまち
- 子どもが増え、元気な声が響きわたるまち
- 老後をゆっくりと過ごせて、いつまでも元気で暮らせるまち

■これから特に取り組みたいこと

- ・居場所づくりや見守り活動を通じ、誰もが安心して暮らせる街づくり

《施策の方向性》

- (2) 地域における居場所づくりの増進
- (5) 身近な地域で住民同士が見守り・相談できる体制づくりの推進
- (13) 地域福祉活動のネットワーク形成

■現在の取組

＜米本コミュニティスペースほっこり＞



地域の方々が気軽に集える場として、『ほっこり』ができました。様々な団体・企業と協働し、平日開所しています。

＜見守り活動＞



コロナ禍に於いて、地域の独り暮らし高齢者宅へ訪問活動を行いました。今後もこの活動を継続し、安心して暮らせる関係づくりを構築していきます。

阿蘇北部地区（阿蘇北部支会）

将来どんな“まち”でありたい

- 気軽に外に出られる安全安心なまち
- 皆が健康で過ごせるまち

■これから特に取り組みたいこと

- ・地域で互いに助け合い、気軽に相談できる関係づくり

《施策の方向性》

- (5) 身近な地域で住民同士が見守り・相談できる体制づくりの推進
- (11) 地域共生社会の理解促進
- (13) 地域福祉活動のネットワーク形成

■現在の取組

＜高齢者施設での研修＞



毎年1回、県内外の高齢者施設で研修会を行っています。活動を通じて、高齢者への理解を深めています。

＜地元高齢者施設でのボランティア活動＞



地元の高齢者施設でボランティア活動を行っています。また、納涼会等への協力も行っており、施設と様々な活動を通じネットワークを構築しています。

村上地域

地域データ

地域の範囲	村上・村上南・村上団地・ 下市場・勝田台北・上高野 (村上東中学区内)
面積	6.3 km ²
人口 (令和2年3月末)	33,918 人
世帯数 (令和2年3月末)	15,591 世帯



地域懇談会などで集まった住民の声

○ 地域のよいところ

- ・交通の便が良い
- ・親子孫3世代で暮らしている人が多い
- ・お祭りが多く参加者も多い
- ・買い物が便利
- ・子育てに良い環境
- ・緑がたくさんある
- ・サロン等の地域活動がある
- ・多国籍の人が集まる場所や相談できる場がある
- ・スクールガードが多い
- ・公園等があり環境が良い
- ・ボランティア活動が多く活発
- ・自治会の連携が強い

○ 地域の課題

- ・日本語を話せずコミュニケーションを取りづらい子どもや大人がいる
- ・村上団地商店街がシャッター街化している
- ・病院が近くに少ない
- ・団地では階段が多くごみ出しが大変
- ・ごみ捨てができない高齢者が多い
- ・高齢者の一人暮らしが多い
- ・認知症の人が増加している
- ・子どもと大人、高齢者の交流の機会が少ない
- ・各団体の後継者が不足している
- ・行事の参加者が高齢化している
- ・世代間のつながりが希薄

○ 地域課題の解決アイデア

- ・外国人との交流の機会をつくる
- ・通訳ボランティアを集め、学校等に派遣する
- ・地域で一人暮らしの高齢者を把握する
- ・支え合いのボランティアグループをつくる
- ・サロンをつくる（お茶会・体操・囲碁・料理等）
- ・顔を合わせる機会や活発な意見交換ができる場所をつくる
- ・若い世代に向けた情報発信を行う
- ・幼稚園や保育園の子どもたちと高齢者の交流を行う

村上地区（村上支会）

将来どんな“まち”でありたい

- だれもが楽しく安心して暮らせるまち
- ボランティア活動が活発に行われるまち

■これから特に取り組みたいこと

- ・どの世代も参加・活躍できる
場づくり

《施策の方向性》

- (1) 福祉教育・ボランティア学習への参加機
会の増進
- (3) ボランティア・市民活動の推進支援体制
の整備
- (5) 身近な地域で住民同士が見守り・相談で
きる体制づくりの推進

■現在の取組

＜地域懇談会＞



自治会の皆さんに呼び
かけ、意見交換及び福
祉活動について周知し
ています。

＜ミニサロン＞



地域の集会場や企業の交
流スペースを利用し、交
流の為のミニサロンを開
催しています。地域内の
顔の見える関係づくりを
構築し、今後は、世代間
交流の場としても展開を
考えています。

上高野原地区（上高野原支会）

将来どんな“まち”でありたい

- 隣近所で仲良く会話ができるような関係が築けるまち
- 幅広い世代とつながりが持てるまち

■これから特に取り組みたいこと

- ・みんなで集まれる場所を
つくりたい

《施策の方向性》

- (2) 地域における居場所づくりの増進
- (6) 防災を通じた福祉のまちづくりの増進
- (9) 住民組織・住民活動の活性化の支援
- (10) 多様な生き方や多文化を認め合える環
境づくりの推進

■現在の取組

＜100円サロン・エプロンコーラス＞



ピアノ講師の生演奏に
合わせ、大きな声で楽
しく歌っています。地
域内の顔の見える関係
づくりと大きな声を出
すことで健康増進にも
大きく貢献しています。

＜男の料理教室＞



孤食に陥りがちな男性向
けに料理教室を開催し
ています。食事作りを通
してコミュニケーションを
とり日常からのつながり
づくりを目的としていま
す。

村上中央地区（村上中央支会）

将来どんな“まち”でありたい

- 地域全体が一つになって協力できるまち
- 多文化交流が活発なまち

■これから特に取り組みたいこと

- ・抱え込まずに誰かに相談できる環境づくり

《施策の方向性》

- (2) 地域における居場所づくりの増進
- (5) 身近な地域で住民同士が見守り・相談できる体制づくりの推進
- (9) 住民組織・住民活動の活性化の支援

■現在の取組

<オレンジサロン>



100円でホットするコーヒーと会話を楽しんでいます。平日は毎日開催しており、地域の方の憩いの場であるとともに、お互いを見守りの場としても活用されています。

<ミニ歩こう会・メディカルウォーキング>

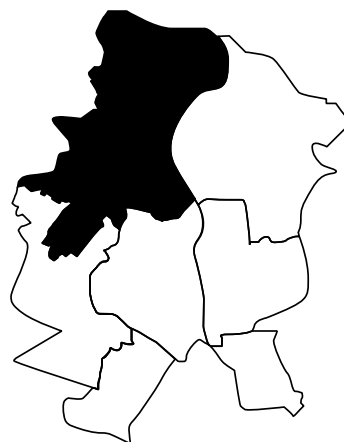


地域内の調剤薬局と協力し、健康の話や体力づくりを行っています。また、気軽に参加できるように、季節に合った催し事や草花の話を入れるなど楽しい工夫がいっぱいです。

睦地域

地域データ

地域の範囲	桑納・麦丸・吉橋・真木野・ 神久保・小池・桑橋・佐山・ 平戸・島田・島田台・尾崎・ 大学町
面積	14.1 km ²
人口 (令和2年3月末)	7,236 人
世帯数 (令和2年3月末)	3,211 世帯



地域懇談会などで集まった住民の声

○地域のよいところ

- ・地域に元気サロンができた
- ・自然が豊か
- ・地域のつながりが強い
- ・地域で子どもを育てようとしてくれる
- ・ボランティア活動が盛ん
- ・地域のお祭りがある

○地域の課題

- ・空き家が多くなっている
- ・農家などの後継ぎがいなくなっている
- ・出かける際の移動が困る
- ・車がないと生活しづらい
- ・ごみ出しできない高齢者がいる
- ・孤立している高齢者がいる
- ・認知症の人が増えている
- ・交通量が激しい割りに歩道の整備が進んでいない

○地域課題の解決アイデア

- ・空き家を活用し、お茶が飲めるような場所をつくる
- ・地域の人や施設と協力し、バス等の移動手段をつくる
- ・移動販売や宅配サービスを利用できるようにする
- ・景観マップ等を作成し、危ない場所の情報発信もする
- ・通学時の見守りを強化する
- ・農業イベント等で交通安全の啓発を行う

睦地区（睦支会）

将来どんな“まち”でありたい

- 住民同士の助け合いで住みよい睦に
- 交通の便を良くすることで安心して移動できるまちに

■これから特に取り組みたいこと

- ・空き家を活用するなどして、
みんなが気軽に集まれる場づくり

《施策の方向性》

- (2) 地域における居場所づくりの増進
- (5) 身近な地域で住民同士が見守り・相談できる体制づくりの推進

■現在の取組

<ふくし祭りむつみ>



毎年7月、睦スポーツ広場にて地域の様々な団体が協力して夏のお祭りを開催しています。福祉について知っていただくためのブースも設けています。

<むつみ虹の会>

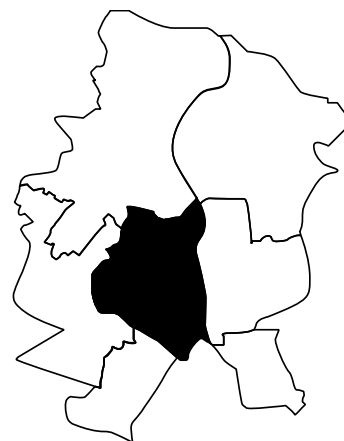


毎年10月、子どもから高齢者まで幅広い世代を結ぶ「虹の架け橋」にしたいという想いで開催しています。小・中学生の演奏や地域の方のステージで楽しんでいただきます。

大和田地域

地域データ

地域の範囲	大和田・萱田・萱田町・ゆりのき台・大和田新田の一部（萱田中・大和田中の学区内）
面積	7.2 km ²
人口 (令和2年3月末)	49,846 人
世帯数 (令和2年3月末)	21,003 世帯



地域懇談会などで集まった住民の声

○ 地域のよいところ

- ・高齢者になっても元気な人が多い
- ・町会の防災意識が高い
- ・萱田地域近くに神社やお祭りがある
- ・お店がたくさんあって便利
- ・新川近くなので自然がいっぱい
- ・子どもを安心して遊ばせられる
- ・新しい人とたくさん知り合いになることができる
- ・地域の人と顔を合わせて話すことが多い
- ・子どもたちが元気に遊んでいる
- ・ボランティア活動が活発
- ・地元の小中学校との連携が良い

○ 地域の課題

- ・スクールカウンセラーが少ない
- ・小学生が気軽に遊びに行ける児童館のようなものがない
- ・子どもの放課後の居場所がない
- ・子ども会に入る人が少ない
- ・地域活動に参加する若い人が少ない
- ・地域の情報が足りない
- ・地域の見守りが少ない
- ・一人暮らしの高齢者が多い地区の防災訓練が大変
- ・集合住宅に住む方は地域と接点が少ない
- ・自治会の加入率が低くなっている

○ 地域課題の解決アイデア

- ・学校の授業やイベント等で子どもたちと地域の大人たちが交流する
- ・学校を活用し、空き教室でサロン等を開催する
- ・地域の人たちが話し合う機会をもっとつくる
- ・小中学校と地域の結びつきを強め、親に関心を持ってもらう
- ・大人と子どもと一緒に活動場所をつくる
- ・自由に過ごせる安全な居場所を徒歩圏内につくる
- ・防災の活動に力を入れる
- ・一人一人が率先して地域に出て掃除などをする

小坂橋地区（小坂橋支会）

将来どんな“まち”でありたい

- 子どもが安心して遊べるまち
- 古くからの住民と新しい住民が共存し、みんなを思い支え合えるやさしいまち

これから特に取り組みたいこと

- ・子どもの居場所づくり
- ・多様な住民同士の交流の場づくり

《施策の方向性》

- (2) 地域における居場所づくりの増進
- (5) 身近な地域で住民同士が見守り・相談できる体制づくりの推進
- (10) 多様な生き方や多文化を認め合える環境づくりの推進
- (11) 地域共生社会の理解促進

現在の取組

<福祉バザー>



毎年9月下旬頃、地域の方からいただいた物品や軽食などの販売を行います。収益金は、地域福祉のための活動に活用しています。

<高齢者福祉旅行>



地域にお住いの70歳以上高齢者と一緒に、バス旅行を行っています。行先は毎年異なり、福祉委員の見守りの中、仲間づくりをしています。

大和田地区（大和田支会）

将来どんな“まち”でありたい

- 気軽に相談でき、それが受け継がれていくまち
- いくつになってもだれもが楽しく輝けるまち

これから特に取り組みたいこと

- ・コミュニティスペースの確保
だれもが気軽に相談でき、立ち寄れる場の実現

《施策の方向性》

- (2) 地域における居場所づくりの増進
- (5) 身近な地域で住民同士が見守り、相談できる体制づくりの推進

現在の取組

<ふれあいサロン>



地域の高齢者を対象に、気軽に集まってお話できる場づくりをしています。その時々テーマに合わせて、様々なプログラムをご用意しています。

<親子で生け花体験>



子育て中のお母さんたちを対象に、ホッとできる場を提供しています。活動の間は、ボランティアがお子様の見守りをしています。

大新下地区（大新下支会）

将来どんな“まち”でありたい

○だれにでも情報が伝わりやすく、地域住民の顔が見えることで気軽に自然体で参加できるまち

○幅広い世代が地域に貢献できるまち

■これから特に取り組みたいこと

- ・サロンなど定期的に地域の方が集まれる場づくり

《施策の方向性》

- (2) 地域における居場所づくりの増進
- (5) 身近な地域で住民同士が見守り、相談できる体制づくりの推進

■現在の取組

<ミニ敬老会>



毎年6月頃、地域の高齢者に参加いただき、敬老会を開催しています。歌や音楽、マジックショー等、盛り沢山のイベントになっています。

<友遊ひろば>



毎年9月頃、世代間の交流を目的に開催しています。大和田西小学校の生徒たちや地域のボランティアにご協力いただき、楽しい場づくりに努めています。

萱田地区（萱田支会）

将来どんな“まち”でありたい

○気軽に相談できる人や場所が充実したまち

■これから特に取り組みたいこと

- ・古くからの住民も新しい住民も一緒に参加出来る場づくり

《施策の方向性》

- (2) 地域における居場所づくりの増進
- (5) 身近な地域で住民同士が見守り、相談できる体制づくりの推進
- (9) 住民組織、住民活動の活性化の支援

■現在の取組

<ふまねっと>



地域が一带となって個人の健康を支えることを目的に、歩行のバランスを改善する運動を行います。毎週1回、開催しています。

<萱田ファミリーお楽しみ会>



毎年11月頃、幅広い世代が一緒に楽しむための会を開催しています。地域のボランティアや子ども会にもご協力いただいています。

ゆりのき台地区（ゆりのき台支会）

将来どんな“まち”でありたい

- いつまでの活気のあるフレンドリーなまち
- 地域で育った子どもが住み続けたいと思えるようなまち
- 住民たちが「ほこり」をもてるようなまち

■これから特に取り組みたいこと

- ・ **地域福祉活動のネットワーク形成**
地域団体と住民との双方向のコミュニケーションの実現と多様な人が集まり地域福祉について考える場づくりなど

《施策の方向性》

- (13) 地域福祉活動のネットワーク形成
- (19) 多機関協働による包括的支援のネットワークづくりの増進

■現在の取組

<ふれあいサロンゆりのき>



「地域のニーズを吸い上げ、福祉活動に生かす」ことを目的に、年4回毎回異なるテーマで開催をしています。

<ゆりのきフェスタ 2019>



地域の方々が、文化・運動などを通して世代を超えてふれあうことで地域の絆を深めています。10月下旬頃、萱田小学校にて開催しています。

高津・緑が丘地域

地域データ

地域の範囲	高津・高津東・高津団地・ 緑が丘・緑が丘西・ 大和田新田の一部（高津中・ 東高津中の学区内）
面積	6.9 km ²
人口 （令和2年3月末）	49,304 人
世帯数 （令和2年3月末）	21,277 世帯



地域懇談会などで集まった住民の声

○ 地域のよいところ

- ・公園が多い
- ・買い物が便利
- ・定期的に大きなお祭りがあり、たくさんの子どもが集まる
- ・新しいまちのイメージがある
- ・おせっかいおばさん、おじさんがいる
- ・集会する場所が複数あって便利
- ・子育て世帯が多い
- ・子ども、住民が増えている・自治会組織が充実している
- ・自主防災会が充実している
- ・防犯パトロールが活発に行われている
- ・地域のつながりがある
- ・子どもたちを見守ろうとする大人が増えている

○ 地域の課題

- ・一人暮らしの高齢者が多く、情報が届きにくい
- ・8050 問題で悩んでいる人が多い
- ・一人暮らしの人に何かあった時に頼れる人がいない
- ・隣近所の人との交流が少ない
- ・高齢者や子どもが遊べる場所が少ない
- ・若い人の地域活動への参加が少ない
- ・地域によって住民参加の意識に差がある
- ・地域とのつながりのない家庭がある
- ・不登校の子の居場所がない
- ・災害時の備蓄倉庫がない

○ 地域課題の解決アイデア

- ・地域の支え合いの必要性を自治会などで広くPRする
- ・普段から近所づきあいをするのを心掛ける
- ・地域の有志で車を出し、買い物支援をする
- ・地域で運営する助け合いの会をつくる
- ・空き家や空き店舗を利用し茶会等を開く
- ・世代間交流を活性化するために、お祭り等の行事に子どもたちにも協力してもらう
- ・あいさつ運動をさらに推進することで、地域でのコミュニケーションに努める

大新上地区（大新上支会）

将来どんな“まち”でありたい

- 子どもから高齢者がふらっと立ち寄り，交流できる場がある“まち”
- 文化を伝え，人とつながる“まち”

■これから特に取り組みたいこと

- ・あいさつ飛び交う“地域の輪”

《施策の方向性》

- (5) 身近な地域で住民同士が見守り・相談できる体制づくりの推進
- (13) 地域福祉活動のネットワーク形成

■現在の取組

<支え合い協定>



地区内施設と支え合い協定を締結し，いざという時に助け合える環境を整備しています。

<スクールガード>



「地域の子も達は，地域の大人が守る」をモットーに見守り活動を実施しています。

高津地区（高津支会）

将来どんな“まち”でありたい

- 子どもから高齢者がふらっと立ち寄り，交流できる場があるまち
- 文化を伝え，人とつながるまち

■これから特に取り組みたいこと

- ・「輪」と「和」で，ネットワークづくり

《施策の方向性》

- (5) 身近な地域で住民同士が見守り・相談できる体制づくりの推進
- (13) 地域福祉活動のネットワーク形成

■現在の取組

<ほほえみサロン・地域のつどい>



居場所事業を通じ「人の輪」を作り「人の和」で住民を見守る体制を構築しています。

<災害支援に向けた研修>



毎年，赤十字奉仕団の指導をいただき，万が一に備えています。

高津5・6街区（高津5・6街区支会）

将来どんな“まち”でありたい

- 住民同士がお互いを気にかけて、声かけを自然にできるまち
- あらゆる外出に不便しないまち

これから特に取り組みたいこと

- ・孤立防止のための「おせっかい」
- ・健康を意識し、人と人がつながるための「場づくり」

《施策の方向性》

- (2) 地域における居場所づくりの増進
- (5) 身近な地域で住民同士が見守り・相談できる体制づくりの推進

現在の取組

＜広報・啓発活動＞

ホームページを使い、活動や地域の声も届けています。
支会だより「ごむの木」も発行しています。



＜「つながり」を構築する場づくり＞



地域の運動会や高齢者のパソコン教室、敬老の日等、各種イベントを通じ、「人のつながり」を強めています。

高津団地地区（高津団地支会）

将来どんな“まち”でありたい

- 世代に関係なく皆が助け合うことのできているまち
- 幅広い世代がだれでも集える場所があるまち
- 自然が今のままたくさん残っているまち

これから特に取り組みたいこと

- ・いつでも会える「機会」や「場」の提供

《施策の方向性》

- (5) 身近な地域で住民同士が見守り・相談できる体制づくりの推進
- (9) 住民組織・住民活動の活性化の支援

現在の取組

＜七夕まつり・敬老のつどい＞



子どもから高齢者が一体になり、顔の見える関係づくりを強化しています。

＜いつでも相談できる窓口＞



住民の声にいつでも耳を傾けられるよう、自治会会員でもある福祉委員は事務所で待機しています。

|| 緑が丘地区（緑が丘支会）

将来どんな“まち”でありたい

○住民同士の支え合い活動が盛んなまち。

■これから特に取り組みたいこと

- ・認知症になっても安心して暮らせる，支え合いの体制づくり

《施策の方向性》

- (13) 地域福祉活動のネットワーク
- (19) 多機関協働による包括的支援のネットワークづくりの増進

■現在の取組

<緑が丘クリーンプロジェクト支援>



「一人一人が出来ることを，出来る場所で」をモットーに，清掃活動に参加しています。

<子どもの居場所事業・ふらっとホーム緑が丘>

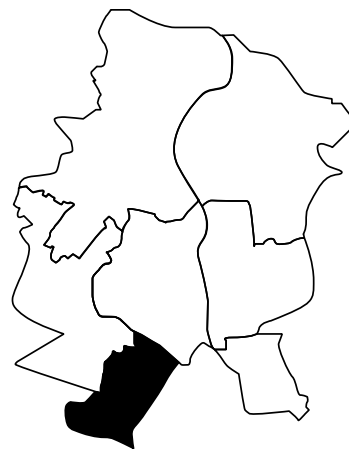


緑が丘公民館の協力の下，食事や遊びを通じ，交流活動を実施しています。

八千代台地域

地域データ

地域の範囲	八千代台東・八千代台南・ 八千代台西・八千代台北
面積	3.3 km ²
人口 (令和2年3月末)	33,955 人
世帯数 (令和2年3月末)	16,594 世帯



地域懇談会などで集まった住民の声

○ 地域のよいところ

- ・公道を掃除する人が多い
- ・子どもが増加している
- ・少しずつ世代交代が進んでいる
- ・市民活動が多い地域
- ・静かなまちで生活しやすい
- ・緑が多い
- ・高齢者が通えるサロンがある
- ・声の掛け合いが当たり前になっている
- ・住宅や公園が整備され防犯上も安心
- ・近くに買い物できる場所があり生活しやすい
- ・まち全体がまとまっている
- ・子どもが賑やかにしている
- ・古きものと新しいものが共存している
- ・災害が少なく住みやすい

○ 地域の課題

- ・一人暮らしの高齢者が多い
- ・一人暮らしの高齢者への声かけが難しい
- ・高齢者はごみ出しがづらい
- ・空き家が増えている
- ・すぐ近くに店がないため、買い物が大変
- ・地域とのコミュニケーションの場が少ない
- ・地域の人のつながりが薄い
- ・新しく越してきた住民との交流がない
- ・お祭り等のイベントを担う若い世代が少ない
- ・地域活動に参加する人が決まっている
- ・身の回りの困りごとの相談先がわからない
- ・不登校の子どもへの対応が不十分
- ・貧困家庭の子どもへの支援が少ない
- ・災害時の避難場所が少ない

○ 地域課題の解決アイデア

- ・家の近くに誰もが行きやすいカフェ等をつくり、困ったことを言える場にする
- ・一人暮らしの人や困っている人を把握し、訪問等をして話を聞く
- ・目安箱を設置して地域の人の意見を募集する
- ・空いているスペースや空き店舗を利用し子どもや高齢者が集える場所にする
- ・地域で学習支援を実施する
- ・不登校の子どもの居場所をつくる
- ・地域の情報交換ができる場や機会をつくる

八千代台西北地区（八千代台西北支会）

将来どんな“まち”でありたい

- 子ども達が「わがまち」に誇りをもって活躍できるまち
- 高齢者の力、子どもの力、親の力が横ひとつのつながりになり、互いに受け手、担い手になっているまち

これから特に取り組みたいこと

- ・多機関で協同し、世代を越えて「つながる」

《施策の方向性》

- (18) 経済的困窮、社会的孤立の解消のための自立支援体制整備
- (19) 多機関協働による包括的支援のネットワークづくりの増進

現在の取組

<ふれあいフェスタ>



ふれあいフェスタ等を通して地区内各種団体との連携を強化したいと考えています。

<すばる（絵画）・すばる（囲碁将棋）・すばる（シニア会）>



地元2箇所の小学校の児童を対象に、地域の方々が講師として活動しています。将棋教室は、地元高齢者複合施設を会場としており、施設利用者と交流をしています。

八千代台北東地区（八千代台北東支会）

将来どんな“まち”でありたい

- 周囲に関心を持ち、笑顔であいさつ、声かけが飛び交う“まち”
- 住民同士が知り合い、助け合いが日常的にできている“まち”
- 自然を大切にし、自然を活かした暮らしができている“まち”

これから特に取り組みたいこと

- ・多世代で助け合いが日常的にできる体制づくり

《施策の方向性》

- (11) 地域共生社会の理解促進
- (18) 経済的困窮、社会的孤立の解消のための自立支援体制整備

現在の取組

<各種団体とのネットワークづくり>



日頃から、支会・自治会・防災・民生委員と“地域を知り”“人を知り”連携しながら支え合い活動をしています。

<顔の見える関係づくり>



特別支援学級との交流をはじめ、配食サービス、ふれあいサロン等、事業を通じ、顔の見える関係を構築しています。

八千代台東地区（八千代台東支会）

将来どんな“まち”でありたい

- 住民同士が気軽に話せて、助け合い支えができていいる“まち”
- 人と人がつながり、一つの大きな輪になっている“まち”
- 若い世代が活躍できている“まち”

これから特に取り組みたいこと

- ・地域とつながり、人と人の絆づくり

《施策の方向性》

- (4) 地域の助け合い活動に関する担い手の養成
- (18) 経済的困窮、社会的孤の解消のための自立支援体制整備

現在の取組

<イベントを通じたネットワークづくり>



「春まつり」や「夏まつり」等、イベントを通じて子どもから高齢者が一つの輪になっています。

<子ども・子育て世代への支援>



福祉委員個人の強みを活かしながら、次世代を担う子どもたちや、子育て世代を支援しています。

八千代台南地区（八千代台南地区支会）

将来どんな“まち”でありたい

- いざという時の助け合い、支え合い、つながりのあるまち
- 住民の声に耳を傾けることのできるまち
- 地域団体がネットワークをつなげ、想いを伝え合えるまち

これから特に取り組みたいこと

- ・地域の要望に耳を傾け、孤独解消に取り組む

《施策の方向性》

- (5) 身近な地域で住民同士が見守り・相談できる体制づくりの推進
- (11) 地域共生社会の理解促進

現在の取組

<世代間交流>



大人と子どもが呼吸を合わせ、演奏やダンスを繰り広げながら、顔の見える関係を構築しています。

<保育園との交流・元気体操>



園児たちとの交流で福祉委員も若返ります。また、元気体操の後はブルーシートを広げ、参加者と座談会を行い、日常の困りごとを話し合っています。

勝田台地域

地域データ

地域の範囲	勝田・勝田台・勝田台南
面積	2.4 km ²
人口 (令和2年3月末)	16,261 人
世帯数 (令和2年3月末)	7,738 世帯



地域懇談会などで集まった住民の声

○ 地域のよいところ

- ・バスの交通網が細かい
- ・病院がたくさんある
- ・サロンや体操等のグループがたくさんある
- ・思いやりがある人が多く、助け合える
- ・各地域のつながりが強い
- ・生活環境が安全である
- ・高齢者が仲良く遊べる場所がある
- ・公園がたくさんある
- ・自治会の活動が充実している

○ 地域の課題

- ・空き家が増えて来ている
- ・自治会に入らない人が増えている
- ・高齢者と若い人との交流が難しい
- ・一人暮らしの人が多くなってきている
- ・買い物に行きづらい地域がある
- ・新しい住民と古くからの住民の交流がない
- ・高齢化が進み、地区の活動の参加が少なくなってきている
- ・地域の住民同士がつながっていない
- ・一人暮らしに関わる問題が多い
- ・気軽に集まれる場所がほしい
- ・ふれあいサロンのような場所がほしい

○ 地域課題の解決アイデア

- ・隣近所に関心を持つことが大切
- ・地域での見守り、声掛け、安否確認をする
- ・自治会みんなで掃除する取組を考える
- ・ごみ出しが難しい人のお手伝いをする
- ・地域コミュニティバスを運行する
- ・お祭りを多世代と一緒に企画する
- ・幼児、小学生、中学生、子育て世代、高齢者みんなが普段活動できる施設を設ける
- ・小学校が多世代の集える場になると良いと思う

|| 勝田台地区（勝田台支会）

将来どんな“まち”でありたい

- 今のまちの様子を守り、だれもが安心できる、安全なまち
- 住民同士の見守りで、一人でも安心して生活できるまち

■これから特に取り組みたいこと

- ・顔の見える関係づくり＋
地域の福祉力の向上
- ・次世代の育成

《施策の方向性》

- (2) 地域における居場所づくりの増進
- (4) 地域の助け合い活動に関する担い手の養成
- (5) 身近な地域で住民同士が見守り・相談できる体制づくりの推進

■現在の取組

<わがまち元気プロジェクト>



勝田台地区では、市内の中で先駆的に「わがまち」を行いました。現在は「第2層生活支援体制整備事業協議体」として話し合いを重ねています。

<ファミリーフェスタ>



世代間交流事業として、勝田台中央公園でフェスタを行っています。子どもから高齢者まで、毎年たくさんの方が参加され、重要な事業の一つとなっています。

|| 4 私（私たち）の活動計画

このページは、住民や団体の皆様が、それぞれの立場で“できる活動”を自由に書けるよう設けました。この「八千代市地域福祉計画・八千代市地域福祉活動計画」を参考に、身の回りの地域の課題について、楽しく前向きに取り組めるような“私の(私たちの)活動計画”をつくっていただければと思います。

「私（私たち）は〇〇ができる！〇〇したい！」という皆様の想いを書き込むことで、活動計画が完成します。